

同窓会報

NO. 27
1980. 12

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



同窓会主催記念音楽会
「島田祐子リサイタル」

九里学園もいよいよ創立八十周年を迎えます。その記念事業の一つである「九里学園教育センター」の青写真もできました。目下、その敷地となる古い体育館の解体作業が急ピッチで行われています。考えてみますと、これまでの校舎の新築はいつも新しい土地を求めて拡張してきましたが、今度だけは古い建物を取り壊しての建築です。今までこそ新しい大きな体育館がありますから、古い体育館は何となく脇役のような存在であります。だが、往年の生徒の皆さんにとっては、それこそ青春をぶつけた想い出の場所であります。それは決して運動クラブの方々だけではありません。あの狭いステージでオペラを演じた音楽クラブや演劇クラブの方々など、多くの同窓生の皆さんにとって何かと思い出多い建物であります。

先日、先生方の有志が惜別的情にかられて、体しかかった古い体育館に集つて茶わん酒をくみかわしながら、ささやかなお別れの集いをいたしました。春の雪どけを待つて今度は近代的な設備を整えたホールや、オープンスペースの学習センターなどを含めた立派な建物に生まれ変わるのであります。

創立八十周年の多彩な記念行事も、準備委員会を組織して企画を練っています。とくに生徒会は、從来在校生だけでやっていた学園祭を、九里祭と改称して、今度は同窓生の方々と一緒にになってやりたいと張り切っています。その他、同窓会独自の記念総会や催し物も、新しい建物を中心に企画されていると聞いています。

こうして新装なった九里学園教育センターを中心には、同窓生と在校生が一体となつた和やかな雰囲気の中で、懐しい皆さんと談笑できる日を今から楽しみにしています。なお、折り込み広告通り、記念誌の編集も始まりました。これには、同窓生の皆さんの全面的なお力添えがなければできない仕事です。どうぞ、積極的なご協力をお願いします。

(加藤和夫記)

学園
近況

創立80周年にむけて



校長
九里茂三

全国に散った二万余の同窓生の方々に、会報を通して、久し振りに御挨拶を申上げます。皆様御元気ですか。当方も至つて元気です。先頃などは、九里幼稚園の運動会で、三十代の御父兄と五十歳競争に出て、はり切りすぎて見事足を傷めるはめにおち入ったのですが、びっこを引きひき東奔西走している毎日です。

生徒諸娘も学習にクラブ活動に大はり切りです。先程は秋の新人大会で、陸上、ハンドは勿論、バレーボール、フェンシング、剣道も優勝、その他も大てい二位三位、文化部の活動も演劇や合唱、吹奏楽、美術、書道もまことに好ましい活躍です。どうぞ御安心下さい。

さて、私が四十才で、九里学園の理事長校長と

して全責任を負うようになってから、既に二十年が経過しようとしています。本当に幸い多い二十年間でした。明年は齡六十才で、八十年を迎えるわけですが、この間に寄せられた同窓生各位の御懇情は、私にとって何よりの力であった事を、あらためて痛感して居ります。今職員生徒は結束して栄光の八十周年に向つて、大きな歩みを始めました。当地方の女子教育の殿堂として、すっかり根を下した九里学園ではあります。しかし、小さな私学の域を脱して、それこそいかにも私学らしい私学をつくり上げようと、意氣も盛んに前進する覚悟であります。常に模索し、常に前進して、教育界のバイオニアでなければならぬと思つからであります。

八十周年の記念事業のあらましは、別に記載したもののが御座いますが、一口に申して「九里学園の中心となる核づくり」だと考えていただいてよいと思います。古い方は中庭にあった小さな講堂、新しい方はそれを大きくしたバラック風の小講堂を御記憶かと思います。あの部分を解体して、小さなながらも見事な小ホールと、現図書館とつながれたラーニングセンターを兼ねたもので、これがたラーニングセンターを兼ねたものです。こ

母校創立80周年記念事業への協賛 経過報告

——協賛会々則からの抜粋——

本会は九里学園の学校法人役員、教職員、P.T.A.会員、同窓会員及び本会の趣旨に賛同する一般有志者を以つて構成する。会長一

同窓会役員が一同に会して、九里学園創立八十周年記念事業協賛会を組織してこの事業の協賛に当りました。

五月二十四日、P.T.A.、振興会、法人役員、金を調達することになりました。

六月早々に事務局では活動の組織についての検討を度重ねて、六月二十九日実行委員会を開催、実行委員は各支部の支部長、顧問、各年度クラス別代表者とし、記念事業へ金二千万円、同窓会の特別事業費として五百万円を決定しました。年度別目標金額もあり、一人三千円以上の額に決定、実行委員に募金の依頼をしました。

七月十三日、前回欠席されたクラス代表者においてを願い、再度募金の依頼をしました。クラス毎、年度毎、あるいは支部で募金がそれ開始されおりますが、最終締切りは五十六年八月末日になつております。

現在応募金額は、約五百万円です。

よろしくお願いいたします。
(田中トシ子記)

これから教職員も、生徒も、最も新らしい教育と学習の在り方を模索しようというわけです。どうぞ楽しみにして居て下さい。なお同窓会として相当額の御協力を下さる事になりましたが、どうぞよろしくお願い致します。

明年度九月十三日の記念日には、同窓生達の集いも計画し、又現役の生徒や職員の出し物も盛りたくさんに、更には記念音楽会や、講演会なども計画して居ります。できるだけ多くの同窓生にお集いいただきたいもので御座います。

終りに同窓生各位の限りない御発展と、御健

名、副会長若干名、常任理事、理事、評議員、監事、各々若干名、副会長には、振興会、P.T.A.、同窓会の各会長がこの任にあたることが決定。常任理事は本会を構成する学校法人の役員、P.T.A.、振興会、同窓会の各会長、副会長がこれにあたる。

理事は、本会を構成するP.T.A.、振興会、同窓会の各理事の他、特に会長より委嘱を受けた者がこれにあたる。

評議員は本会を構成するP.T.A.、振興会、同窓会の各評議員がこれにあたる。

監事は本会を構成するP.T.A.、振興会、同窓会の各監事がこれにあたる。



同窓会員の皆さんへ

同窓会長 竹田カツ

同窓会の皆様何よりお過ごしていらっしゃいますか。今年は全国的な冷害に見舞われ、皆様方も色々な立場で御苦労なさった事と思いますが、御健勝で御活躍の事とお察し致して居ります。

今年度の同窓会主催の音楽会も盛会に終了致しました。年々盛大さを増して居りますが、同窓会としての一大事業である音楽会も、地域に定着したものと喜んでおります。これも一重に皆様方の御協力の賜と感謝致して居る次第です。

母校も来年は八十周年を迎えるとして居ります。七十周年の記念行事の中で、久々の友と逢い、旧交をあたためて、母校の発展を喜び、足跡をなしきめ合つたのもついこの間の様ですが、月日が流れの早さに今更ながら驚いています。母校も校長先生の英智にとんだすばらしい活力と、それを支えてくださる諸先生方、更には生徒の皆さんの団結の力で良き校風を作り、伝統を貫き、置賜の女子教育の殿堂として、更に全国の私学の模範として発展して居られる事は、私達同窓生にとってこの上ない喜びでございます。又同窓会員の数も二万を数え、県内はもとより全国各地でそれぞれに御活躍なされて居られます事は、誠に喜ばしい限りでございます。

先日、久し振りでクラス会を開いて、懐しい方々とお逢いし、夜のふけるのも忘れて思い出話を花を咲かせました。あの友、この友、そして当時の諸先生方、学校行事の数々、時を忘れ、年を忘れて楽しい一時を過ごしました。最近世の中がむずかしくなり、多くの方が共通して楽しむ話題が少くなっている中で、誠に感受性の強い思春期を過ごした学窓の思い出こそ、新鮮で楽しいものはない、歲月の流れと共に、より美しく、より楽しく思い出されるものは無いと思います。一人

一人の生活や環境が異っても、又何十年間わなくとも、逢えば環境の違いも歳月のへだたりも無く、一つの心になれる。これが校風と伝統を誇り

として生きて来た者の喜びでなく何んでしょうか。いよいよ来年は、輝ける八十年の歴史の積み上がる年と思う時、私達同窓会にとつても、この上もない誇りと喜びでございまして、その時代、時代を支えて发展して来られた多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。同窓会としても、何か記念事業をと考へて居つた所でしたが、校長先生より「九里学園教育センター」の建設の話をお聞きして、これはすばらしい事だと、資金の一部を同窓会の力の結集でと、すでに皆様の所にお送りしたお願いになつた次第でございます。どうか同窓会の方々のお一人お一人のあなたかい御協力をお願ひして、八十周年の記念事業を成功させて下さる様にお願い申し上げる次第です。

八十年代は婦人の年と言われ、更に婦人の年十一年の中でも、今世界を上げて婦人の地位の向上の問題が論議されて居ります。八十年代は厳しいと言われて来ましたが、まさに内外共に厳しさを加えて居ります。国の経済問題を始めとして、資源問題・農業問題・生活全般にわたる問題と、限りない程の問題が山積致して居ります。これを切り抜けるに必要なのは、婦人の團結力であり、婦人の敏密さであり、温かい助け合の心であり、八十年代は婦人の年といわれるゆえんであると思います。この誠に意義深い年代の中で、校風と伝統を誇りとする者同志が心を一つに結集し、地位向上に、母校の発展にがんばろうではございませんか。

今年は寒さも早いとか、お互いにお体に十分気をつけてくださいまして、一堂に会する日を楽しみに、職場に、家業に、家事に御精進されます事をお祈り申し上げて御挨拶と致します。

九里学園に奉職して二十一年目になるこの間、九里学園の教育の質と量両面のめざましい充実期にあたり、この中で、本物の教育とは何であるか。追求できたことは私には本当に幸なことであつた。今は仕事のことも懐しく思い出せるが、教員になりたての頃はとまどいも多かった。その最たるもののは掃除である。以前は全く無関心であつたし、家庭で実際に雑巾を手にする事もなく過ごしてきただこともあって、女子校での徹底した大掃除には驚いたものであった。当時掃除の指導責任者は加藤こと先生で、学生であつた。伝統的に女の先生が係になつてゐるとも聞いていた。二、三年後、どうしたわけか私が係になつたのである。私は掃除のイロハから学ばなければならなかつた。掃除用具には何があり、どんなものが必要か、どこをどのようによくきれいにするか、掃除の組織や体制はどうあるべきか、きれいな校舎を維持するにはどうするかなど私は大きな悩みであつた。掃除屋になりました。校舎の隅を掘りおこし生徒と一緒に花壇をつくつた。そこには全校生が持ち寄つた白とピンクの芝桜やチューリップが咲きみだれ、マリーゴールドの強烈な香りが校舎を包んだ。

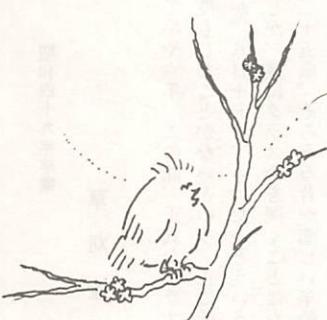
九里学園の研修会に参加する機会も多く、東京や新潟、秋田等の伝統ある私立学校も訪問してきた。校内ではいつも掃除のことが頭にあつたのだろう。訪問すれば必ずその学校のゴミ箱や掃除用具箱をのぞく習慣になっていた。東京の自由学園の雑巾干し、文化服装学園のゴミ箱、秋田の聖靈女子校の用具箱など、会議の内容よりも強く印象に残つたものが少なくなかつた。ある時はしばらく用具箱をつながれなかったこともあつた。掃除の係が六年間も續くと関心も少しずつ変化してきた。掃除から造園や動物へ移つてきたようだ。生活部の願いは、きれいな校舎、じゅうたんのよくな芝生と色とりどりの四季の花、そしてかわいらしい動物達であった。動物の飼育は噴水の鯉ぐらいであとは結局失敗に終わつた。

学校での掃除の係は家庭生活にも大きな影響を及ぼしたらしく。ある時期はヤギ、アヒル、ウズラ、ネコ、イヌ、ウサギと同居することになり、近所に迷惑をかけることになつた。

今、私の関心も動物から果樹や野菜作りに移りつつある。時々農家の人が通りかかり、気の毒そうに作物をながめていく。

掃除の思い出

荒井健三





昭和二十年三月卒業

関 な み

三十五年振りの歓び

昭和四十九年卒業

草 剣 綾 子

羽生田 彰一

関白宣言のリズムにのつて

「あなた卒業式の思い出ある？」
「あの時卒業式なんてあったかなー」
「証書は持ってるから多分あつたんじやない？」
「全然憶えてない、勤労奉仕、炭焼きの薪運び、
学徒動員での工場生活は印象的」こんな時勢に卒業して以来、今年で三十五年、私達は九月小野川温泉で初めての級会を催しました。

「級会の通知を受けた途端、身体がぞくぞくして来た。」「胸がわくわくして寝就かれなかつた。」「神経痛の痛みを忘れた。」「十四日が待ち遠しい、みんながどんなに成長したか早く会いたい。」

こんな電話が続々とかかって来たのでした。いよいよ級会当日、出席総員二十六名。まあこのお喋りとはしやぎ様は三十五年前とちつとも変わってない。部屋の中は熱気で一杯だ。近くの人たちは漬物果物お菓子手料理を各自持ち寄つてお茶受けが食べ切れるものでない。遠くから來た人は恐縮がり乍らも故郷の味、暖かい心に満足している。お喋べりと食欲は夜中になつても尽きない。

娘から妻、母、そして子育ても一応終り、今は身も心も成熟した女が一堂に集り、何處にでも転つてゐる話題ではあるが幾多の苦しみ悲しみをその人なりに乗り越えた顔にはしわと白髪が目立つてゐた。

次回を約束し三十五年振りの級会が気持ちに張合ひの余韻をもたらせ、懐しさと歓びの感激で終りました。



南原支部の皆さん

私が、三年八組の級友達よ。輝く日本
の母となつて、また集まろうね……。

卒業して早や六年、この間、正式なクラス会はただの一度もしたことがないという、正に前代未聞の私達が、八月十五日、いつたいどういう風の吹きまわしか、遂にクラス会を開くことになりました。女二十五歳、そろそろ昔が恋しい年齢にさしかかってきたとということなのでしょうか。さて集つた二十名余りの級友達は、見事！と思わず感嘆のため息をもらしてしまって、変わつていなことです。外見はもちろんのこと、話をすれば宿題を忘れて頭をこづかれたくやしい思い出などなど……。内心なんだ、みんなの頃と同じね。なんてホッと胸をなでおろしたのです。と思いきや、次の瞬間には自分の考えの甘さがズキリ……皆が楽しそうに口に運んでいる箸、その箸を持つ手つきを。いえ箸を持つ左指をごらんあれ！何かキラキラしたもののが薺指で光つてゐるではありませんか。ああ、これこそが女子学生から社会人、そして妻へという一大変革でなくて何でありましょう。それも一人や二人ではない。大方の級友達があちらでもキラキラ、こちらでもキラキラ……私が自分で買つた金の平打ちが申しわけなさそうに机の下でそつと鈍い光を放つてゐるものあわれである。もうそんな年齢なのですね。

これから来年、再来年とクラス会を続けて行くにつれ、さらにキラキラの数は増え、そのうちに九里幼稚園のことが話題の中心になつたりして……。女は弱し、されど本人は満足してゐるらしいが……。本当にうまくなつてゐるのか、疑問である。半分は茶飲み話に花を咲かせてくるんだろう。最近は、子供に手がかかるなくなり、小学校・九里幼稚園などでいろいろな人と出会い、話をする機会が多く忙しい反面、人生に対し、心に余裕が出て物事を大きな気持で見られる様になつたのはよく感じられる。近ごろ十年もつた理由はなんだろうと考える。やはり「カカア天下」なのかな……。

今年で結婚十年になる。結婚式の祝辞の中でも、結婚生活は、最初が肝心だなどとよく言われた。当時、そんな事はあるまいと確信していた「関白宣言」の歌のようにである。ところが、十年たつた今はどうだろ。当

「ワифを語る」



昭和四十二年卒業
(妻)羽生田君子
旧姓 青木

今年から、習字を始めたが、実に楽しそうだ。本人は満足してゐるらしいが……。本当にうまくなつてゐるのか、疑問である。半分は茶飲み話に花を咲かせてくるんだろう。最近は、子供に手がかからなくなり、小学校・九里幼稚園などでいろいろな人と出会い、話をする機会が多く忙しい反面、人生に対し、心に余裕が出て物事を大きな気持で見られる様になつたのはよく感じられる。近ごろ十年もつた理由はなんだろうと考える。やはり「カカア天下」なのかな……。

十年を記念し、もう一度「関白宣言」をしてみよう。楽しみでもあり、多少不安な思いがしないでもありません。



音楽会

毎年開催されている音楽会。9月に入ると今年はどんな事を企画されて、私達をいたしませて下さるのかな……と、その日の来るのが待ち遠しい私です。多忙な毎日の中で、年一回の音楽会は、お互の生活をエンジョイさせてくれているようで、とてもうれしく感じます。

米沢では聴く事の出来ないすばらしいものをいろいろと企画され同窓生並びに一般の方々にも聴かせていただいて、心より感謝致しております。なんでもうですが、1つの事業を行うには、執行部の方々の苦労は言葉では表現できないものがあると思います。にもかかわらず毎年開催してくださる事は、同窓生の1人として頭のさがる思いでいっぱいです。

今回の島田祐子リサイタルは、すばらしいの一言につきます。私事ですが、この度は主人と共に聴かせていただきました。会場いっぱいの聴衆、むんむんする中で、1曲1曲大事に歌っておられる姿が、今でも忘れる事が出来ません。とてもすばらしく感動の連続でした。何もかも忘れ音楽の世界に酔い、現実にもどるのがおしい気がしました。

最後に一言、私なりに気付いた点ですが、お互に旧友同志が誘い合い、会場に来ておられる方が大部おられたようです。懐しさの余り、開幕になんでもおしゃべりが続き、周りの方が迷惑しておられました。この点、とても残念でした。次回からは、お互にマナーを守り、楽しい音楽会が出来るように協力すべきだと感じました。来年の企画に期待します。

昭和28年卒業 黒田美智子



御連絡は米沢女子高等学校

以上のような内容ですが、在校生や同窓生の方々の姿を記録にとどめ、皆様に愛読される冊子として立派なものにしたいと編集員一同張り切っています。

6 自主研究（在学中の研究集録）

明治 大正、昭和の学生生活学習内容、教科書、行事、先生方の姿、服装、髪型、通学、寄宿舎生活、遠足、旅行など）

4 高等学校ができるからの活動

5 活躍する同窓生の姿

以上の内容ですが、在校生や同窓生の方々の姿を記録にとどめ、皆様に愛読される冊子として立派なものにしたいと編集員一同張り切っています。

御連絡は米沢女子高等学校

先日、私が卒えた興譲館高校の同期会があつて出席した。そこには、現校長をはじめ何人かの恩師も来られ、興譲館の「第二グラウンド」造成のための募金が訴えられた。私は今、米沢女子高校の一員で、この学校の充実、発展のために全力を尽す立場にあるので、自分の母校のグラウンドのために「ボン」と何万円もの寄付をする気にはなれなかつた。

私にとって、中学、

高校時代は、全く忘れ得ぬ懐しい青春時代であり、そこで様々な体験が、又生き方や友人とのふれあいが、今自分と深く関わっているのは当然であり、それ故にこそ、高校時代の「同期会」にも出席する気持ちになったのである。しかし、県立である興譲館は、その後、私達の期待とか願いとは全く無関係な歩みを辿っていく。教師陣も、もう全く変わってしまっている。正直言つて、自分とは全く関わりのない存在の様な気がしてくるのだ。自分の青春にとってかけが

同窓会考

平賀秋夫

いことだろう。こうした学園関係者の一体感での、学園造りこそ大切なことだ。『同窓生の皆さん』そのような意味で、九里学園が、眞に地域の教育要求に応え得る学校となれるよう、惜しみない御支援を心よりお願い致す次第である。

『同窓生の皆さん』そのような意味で、九里学園が、眞に地域の教育要求に応え得る学校となれるよう、惜しみない御支援を心よりお願い致す次第である。

この場所で開催されることになりました。表題のように八十年の在学生の活動と、卒業された皆様の御活躍を綴るものであります。従つて皆様が在学当時使われた教科書、ノート、作文、日記（さし支えない部分だけ）、結構です）、当時使用した用具、衣服、スナップ、写真、通知票、学校から渡された印刷物、など記念になるようなものを拝借して下さい。貴重な品目ですので、紛失しないよう管理保管いたしますし、写真、コピーなど撮りましてすぐお返ししますので是非協力下さい。このほかに座談会や、取材のための訪問など企画しております。今までのところ数名の方々にお会いして当時のお話を伺いましたけれどもまだ不十分です。いろいろなアイデアをお寄せいただきたり、品物をもっている方を紹介していただければ幸せです。また卒業後世の中で活躍しておられる方も紹介したいと考えますので、御推薦下さい。

『記念誌』編集中

今年九月、八十周年を迎えるに当つて記念誌を発行することになりました。表題のように八十年の在学生の活動と、卒業された皆様の御活躍を綴るものであります。従つて皆様が在学当時使われた教科書、ノート、作文、日記（さし支えない部分だけ）、結構です）、当時使用した用具、衣服、スナップ、写真、通知票、学校から渡された印刷物、など記念になるようなものを拝借して下さい。貴重な品目ですので、紛失しないよう管理保管いたしますし、写真、コピーなど撮りましてすぐお返ししますので是非協力下さい。このほかに座談会や、取材のための訪問など企画しております。今までのところ数名の方々にお会いして当時のお話を伺いましたけれどもまだ不十分です。いろいろなアイデアをお寄せいただきたり、品物をもっている方を紹介していただければ幸せです。また卒業後世の中で活躍しておられる方も紹介したいと考えますので、御推薦下さい。

記念誌内容

1 グラビア（写真集）

2 校長論文（新しい教育センターの構想）

3 生徒活動に見る八十年

明治 大正、昭和の学生生活学習内容、教科書、行事、先生方の姿、服装、髪型、通学、寄宿舎生活、遠足、旅行など）

4 高等学校ができるからの活動

5 活躍する同窓生の姿

以上の内容ですが、在校生や同窓生の方々の姿を記録にとどめ、皆様に愛読される冊子として立派なものにしたいと編集員一同張り切っています。

御連絡は米沢女子高等学校

以上の内容ですが、在校生や同窓生の方々の姿を記録にとどめ、皆様に愛読される冊子として立派なものにしたいと編集員一同張り切っています。

御連絡は米沢女子高等学校

以上の内容ですが、在校生や同窓生の方々の姿を記録にとどめ、皆様に愛読される冊子として立派なものにしたいと編集員一同張り切っています。

御連絡は米沢女子高等学校

